

第6班

今後の建設業のあり方について

(機電技術者には何ができるか)

第 6 班		
前田道路(株)	早 坂	川
大林道路(株)	吉 川	
三井住友建設(株)	戸 崎	
佐藤工業(株)	篠 宮	
西松建設(株)	鈴 木	

①社会背景

【キーワード】

- ・景気低迷
- ・環境問題
- ・少子化、高齢化

【問題点】

- ・道路: 都市部では、連日の交通マヒ
- ・治水: 洪水、水不足が時々発生する
- ・鉄道: 東京から日本海側への移動が不便
- ・電気: 原子力発電への依存が大きい。
他の発電方法が必要
- ・建築: 今後の高齢化に対応する必要がある
- ・その他: 老朽化のためメンテナンスが必要

インフラ(社会資本)は充実してきているが
まだ、解決すべき問題がある

②建設業界と機電職の現状

【キーワード】

- ・工事量減少
- ・環境に対する社会的要求
- ・リストラ、後継者不足

【建設業の現状】

- ・景気低迷、インフラ充実により新規工事、設備投資が減少
- ・リストラ、定年により経験豊富な技術者が減少
- ・新規従事者の減少による後継者不足
- ・リサイクル、排ガス、エコエネルギー等、環境に対する社会的要求の増加
- ・リニューアル工事、新規事業の提案等、新しい発想が必要とされている

【機電職の現状】

- ・仮設屋、便利的立場となっている
- ・建設市場の減少に伴い、機電部が縮小化
- ・リストラ、定年により経験豊富な技術者の減少
- ・中堅職員が少ない
- ・新規従事者の減少により後継者が不足
- ・外注化、自動化により、本質を知らない技術者が増えている

③建設業及び機電職のあるべき姿

【建設業】

- これからは社会資本の配分及び質を重視し、社会情勢にあったものを積極的に提案し構築していく必要がある。
- 老朽化による安全・機能の低下に対する診断、メンテナンス技術の確立が必要となる。
- 建設業の経験をいかし、新規分野へ進出する。

【機電職・機電組織】

- 自分の武器となるような技術・知識を習得する。
- 個人ではなく、機電組織全体で問題に取り組み機電職全体で存在感をアピールし、地位向上を図る。
- 機電部門を集約化する。
 - 現場数の減少にリ次の配属先のない職員のよりどころとする
 - 全国の仮設計画を引き受け、生産性を生む
 - 実績・技術を集積し、技術の伝承を図る
 - 現場の問合せに対する総合窓口となる。
 - 機電職のネットワークを強くする。
 - 組織全体で、新規提案を考える

④これからの機電職の役割

- これからは、各社の技術・コストの関する競争の激化が予想される。この競争を勝抜くための提案を積極的に行う。
- インフラに関して、仕事をもうら時代から積極的に提案して仕事を作る時代となる事が予想される。これらに関しても、提案を積極的に行う。
- 新規分野への進出に関しても、建設業の機電的立場から積極的に提案を行う。